

【生薬名】杜仲 *EUCOMMIAE CORTEX*

【起源植物】トチュウ *Eucommia ulmoides*



【科名】トチュウ科 *Eucommiaceae*

【別名】思仙(神農本草経)、思仲(名医別録)、木綿(呉普)

【薬用部分】樹皮

【主成分】アルカロイド(グッタペルカ)

【薬性】気味は甘微辛温、帰経は肝腎に属す

【効能】●補肝腎・強筋骨・安胎

●数年前に日本中で健康茶(杜仲茶)として大ブームになった

●強壯、強精、鎮痛作用

●高血圧や動脈硬化

●神経痛や関節痛、腰痛に1日5gを煎じて服用する

●漢方では少なくなった腎の陽気を補う作用があるとされ、腎陽虚による腰痛や流産防止、血行障害、四肢の冷えに用いる

●生薬を折ると生の葉と同様に白い糸を引く(写真右)、これがグッタペルカ。良品ほど多く引く

●杜仲の水性エキスは家兔に投与すると顕著な血圧降下をみる

【出典】●杜仲. 一名思仙. 味辛平. 生山谷. 治腰脊痛. 補中. 益精氣. 堅筋骨. 強志. 除陰下痒濕. 小便餘瀝. 久服輕身耐老. (神農本草経上品)

●杜仲 辛温、筋を強め、骨を壮にし、足痛み腰疼、小便淋瀝。(薬性歌)

【備考】●杜仲は肝を補い、腎を滋す効能がある

●肝腎の不足を治し腰膝疼痛のむ要薬とする

●肝は筋を主り、腎は骨を主り、腎が充つれば骨が強く、肝が充れば筋が健かになり、屈伸利用はみな筋に属する

【処方例】●七物降下湯、青娥丸、千金保孕丸、大防風湯、杜仲丸